

デジタルアーカイブ学会シンポジウム
博物館デジタルアーカイブの現在地(第3回:コモンズ編)
2025年3月19日(水) 19:00~21:00



ミュージアムに集うためのコモンズ的实践

慶應義塾ミュージアム・コモンズ
本間 友(ほんま・ゆう)

homma@art-c.keio.ac.jp

 yuhomma@sunny.garden



CC BY-NC 4.0



慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo)

創造的な「空き地」

- 固定された／明確な目的が設定されていない場所
- 集まった人たちの顔ぶれ、アイデア、持ち物で遊びが始まる
- さまざまなモノや活動を持ち寄り(=共有して)、
なにか一緒に行動してみる

創造的な「空き地」

- コレクションとの関わりを多様化する
- ミュージアムやアーカイヴの周縁を広げていく
- (大学の持っている資源の共有化について考える)



KeMCoの仕事

- いろいろな人が関わる展覧会:「KeMCo新春展」
- 学部の学生を中心とした活動:「KeMCoMプロジェクト」
- ゼミナールとの共同プロジェクト:「KeMCo Staircase Lab.」
- デジタルアーカイブの構築・利用プロジェクト:「デジタル・コモンズ・プロジェクト」





KeMCoの仕事

コモンズ・空き地のメンテナンスをする

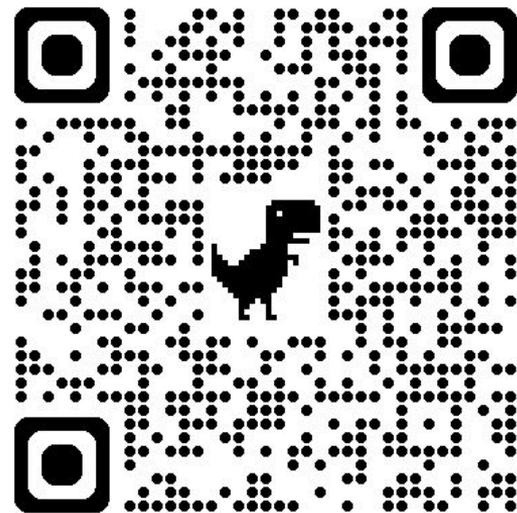
ミュージアムに関わる人々をなるべく可視化していく

メンテナンスの大変さ

- 実践例に基づくバランスのよいガイドライン(?)づくり
- さまざまな関心と繋がっていく、ためのコミュニケーション
- 既存の仕組みとの調整

大学ミュージアムにおける創造的「空き地」の実践：
コレクション・マネジメントへの新しいアプローチ

<https://www.fl-keio.info/intro/?p=1778>



なぜコモンズなのか

① ミュージアム(やアーカイヴ)が自分に関わりのあるものだと思ってほしい

- 慶應義塾:
ミュージアム的なもの・アーカイヴ的なものがあたりまえではない組織
- なにもしないでいると持続しない

② 関わる主体は多いほうがよい

- リソース／孤独／多様性・新陳代謝

③ 様々なコレクションに軽やかにアクセスしたい

- デジタル空間の生活・日常化
- デジタル空間とそこにあるリソース
- 「あったら便利」
→「あるのが普通」(2010s以降)
→(「なぜないの」へ?)
- デジタル・リソース = **実用品** として捉える

実用品としてのデジタル・リソース(コレクション)

「用」のあるものから作って行って、作ったものを共有する 🤔

リソースを拡大していくためには・・・

- 「用」のある人を増やす
- 実用品としてのデジタル・リソースのクオリティとは？
 - cf 展覧会で来館者が撮影した写真
 - ref. シチズン・サイエンス領域での実践 [Monument Monitor](#)

デジタル・コモンズ・プロジェクト(2023-)

問題意識

- 文化機関や教育機関が、所蔵コレクションのデジタル・リソースの作成と流通を担っている
- どのようにデジタル・リソースが使われているのかが見えづらい

目的

「ミュージアムに関わるデジタル・コレクションを、社会の幅広いコミュニティの成員と共同的に構築し、その活用を進展させてゆく方法を検討する」

デジタル・コモンズ・プロジェクト(2023-)

電気通信普及財団 ネット社会課題対応援助プログラム(2023-2025)

第一フェイズ: デジタル・コモンズの活用・構築のためのリテラシー学習プログラム設計

- インタビュー調査等による課題の考察
- デジタル・リソースを「つかう」「つくる」ためのスキルセットの定義
- プロトタイプ・ワークショップの実施(2024年5月、2025年1月)と評価

デジタル・コモンズ・プロジェクト(2023-)

- テクノロジーとの適切な距離感の設定
- デジタル・リソースの活用に関わるツールの可視化と分類
- ピア・ラーニング環境の構築
- 「つかう」ための関心をどのように顕在化させるか

The KeMCo Review 03(2025.03.31 発行予定)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kemcoreview/-char/ja>

